

サハリンと北海道を兄弟の關係に！

あなたも友情のことば、エスペラント語にふれてみませんか？

エスペラントとはやさしく公平なことばです。

2016年 8月15日 (月)

午後6時30分～午後8時30分

入場無料

Гостиница Гагарин 9階 会議室

Южно-Сахалинск, ул. Комсомольская 133

＜日本人による講演と講習＞

○講演「友情のことば、エスペラント」

元北海道エスペラント連盟委員長 星田淳 (ほしだあつし)

○講習「エスペラント ABC」

北海道大学エスペラント研究会 西端克俊 (にしばたかつとし)

主催：北海道エスペランチスト合同サハリン交流宣伝訪問団

8月10日から17日まで Гостиница Гагарин に滞在しています。どうぞ御自由に訪問してください。(ロシア語通訳：川畑)

北海道への連絡はメールアドレス hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp あてにメールをください。その際は平易なロシア語をお願いします。また、返信に時間がかかることをご容赦ください。(星田)

エスペラント語はなぜ必要となったのか

1887年にエスペラント語が考案されて以来、様々な困難にもかかわらずエスペラントは絶えることなく持続し、発展してきました。現在、全世界で百万人の人がエスペラントを学び、使用していると言われています。なぜこのような言語が考案され引き続き存在してきたのでしょうか。それは、近代以降の世界社会の条件によるのです。

1. 大衆の生活が国際的になってきた

近代以降、民主化がすすむにつれて、民族の文化とことばが発展していくとともに、他の民族の文化との交流が深く広がってきました。国際的な生活や文化は一部の専門家や余裕のある人達に限られず、だんだんと大衆の生活ともかかわりあいを強くしてきました。

2. だが、外国語はむずかしい

国際的な生活に加わるために必要な手段は、外国語を学ぶことです。ところが外国語はどれもむずかしすぎます。民族のことばは子供の頃から長い年月をかけて、まるで母から乳を飲むように覚えていくと言われています。むずかしいことばを自由に使えるようになるにはおびただしい金と時間がかかります。大衆には普通そのようなゆとりはありません。だからサハリンで日本語を、北海道でロシア語を学ぶ人はごく限られているのです。

3. その上、外国語はたくさんある

英語は、いまアメリカ資本主義の力を背景にして、各国の義務教育で採用され国際ビジネスで実用されていますが、日本では多くの大衆はその教育にもかかわらず、英語を十分には理解できません。さらにロシア語はドイツ語やフランス語と並ぶ重要なヨーロッパ語ではありますが、中国や日本のことばも無視できません。スペイン語やアラビア語なども世界情勢を理解する上で重要になってきています。こうなっては外国語のぬかるみ道は、はてしなくつづくのです。

4. 民族の自主性の重要性

ロシアのみなさんは、ロシア人としてロシア語をはじめとして諸民族のことばと文化を守りそだてていかなければなりません。ときとして外国語を使うということが、自分のことばを捨てて相手のことばへの隷属となることがあります。たとえば、国際会議で自分のことばを使わず、不自由な相手のことばで話しあうとすれば、お互いのことばの対等性は失われてしまいます。民族の自主性をみとめた上での国際的な民主的な生活がもとめられています。

エスペラントは、どこの国のことばでもありません。すべての人にとって、第2のことばです。エスペラントをつかうことは、誰に対してもその人の民族性を少しも傷つけません。この平易なことばは、国際的な言語生活に対等な民主性を保証します。